



実績報告書

赤ちゃんには生まれもった力がある。
赤ちゃんは主体者で、自ら育つ力を持っている



0歳～2歳児の親が

子どもの発達に寄り添い笑顔になる支援事業



ごあいさつ



この事業は「プロによる芸術の力を活用した子育て支援を行政との連携で行う」事業です。子ども劇場千葉県センターでは、2017年度から「乳幼児の育ちと芸術」の研究会を立ち上げました。その学びの中で「非認知能力」という言葉を耳にしました。

『非認知能力』とは、将来生きていく基本となる好奇心、共感力、協調性、コミュニケーション力といった人間として生きていく力ですが、それを身につけるのに最適な時期は「乳幼児期」であること、そして乳幼児期の成長発達を応援すること、五感に働きかけることの重要性が、脳科学の研究者や専門家等からも注目され提唱されていたことを学びました。子どもの教育に国が政策としてお金を使うなら、「乳幼児期に投資する」というのが世界の流れになっていることも知りました。

改訂され2018年4月から適用されている新「保育所保育指針」には、子ども・子育て事業に係わる大切な指針として、乳幼児期から小学校へ続く成長発達の考え方が示されています。乳幼児期は、基本的信頼感を形成する時期であり、保育者(親)とのアタッチメント(愛着)が重要であることも強調され、非認知能力の基礎が育つ時期でもあり、人との関わりの質も重要であることから、「よりいっそうの配慮が望まれている」と明記されています。

子育て支援は市町村行政の施策として重要な施策の柱となっています。県内54市町村では虐待の未然防止や対応を意識し、切れ目のない支援、0歳～2歳児とその親支援を手厚しています。県内54市町村を訪問し、「一緒にやりませんか？」と足かけ2年かけて提案してきました。NPOである私どもにも「乳幼児と親支援を担わせて頂きたい」「市町村でやっておられる子育て施策に協力したい」という素朴な願いと、強い動機を持って始めた事業です。

当団体では、改めて乳幼児期の子どもの育ちの重要さに着目し、3年間は事業を継続しながら、行政との連携事業の強化と、プロによる芸術的なプログラムを市町村の子育て支援施策に反映することを最終的な願いとして、活動して参ります。

今年度コロナ禍の中、10か所で実現できました。多くの方々と一緒にできたことに感謝しております。また、貴独立行政法人福祉医療機構 令和2年度社会福祉振興助成をいただき、実施できましたことに厚くお礼を申し上げます。

(特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事長 宇野京子)



Contents

| | |
|------------------|---------|
| 事業の目的 実施実績 成果と課題 | 2P～ 4P |
| アンケート分析 提言 自由記述 | 5P～10P |
| 成果報告会の報告 | 11P～14P |
| 10か所の実績報告 | 15P～24P |

1. 事業名：「0歳～2歳の親が子どもの成長発達に寄り添い笑顔になる支援」事業

2. 目的

0歳～2歳児と子育てをしている親(保育士、支援者)に対し、乳児を研究し尽くしたプロの芸術家によるベビー向けのワークショップを行い、エンパワーされてわが子とあそび、喜びを実感し、乳児の発達に寄り添った日常生活に活かせる手あそびやわらべうた等の芸術的スキルを身につける。孤立しがちな親が、そのスキルを使ってコミュニケーションを楽しみ、わが子といっしょに笑顔で毎日を過ごす一助になることを目的に、県内市町村行政の連携と協力を得て10か所の子育て支援施設、児童センター、保健センター、保育園等で実施する事業。

3. 対象：0歳～2歳児とその親・家族・施設保育士

4. 実施時期：2020年4月～2021年3月

5. 実施体制

①コア会議 7人 6回開催

メンバー：宇野京子 大森智恵子 買場都明 椎名好子 鈴木佳子 滝口淳子 中村雪江

役割：事業計画の立案から実行、まとめ 及び財務執行

第1回 2020年4月7日(火) 目的確認 事業評価の指標を確認 実施体制と役割

第2回 4月28日(火) 担当行動計画 打診進捗 戦略 第3回 6月1日(月)進捗確認 課題解決

第4回 10月25日(日)進捗確認 課題解決 第5回 12月21日(月)進捗確認 成果報告会

第6回 2021年3月1日(月)事業のまとめ

②推進プロジェクト会議 22人 3回開催

メンバー：佐野裕子(仙台白百合女子大学特任教授) 久留島太郎(植草短期大学福祉学科准教授)

納富俊郎(人形劇団ののはな主宰) 大沢愛(特)表現教育研究所代表)

大森靖枝(劇団風の子) 安西真幸(ダンスパフォーマー)

以下子ども劇場千葉県センターコーディネーター

宇野京子 大森智恵子 買場都明 椎名好子 鈴木佳子 滝口淳子 中村雪江 岡田泰子

笠原直子 桑原信子 中川香子 中村幸恵 白鳥みゆき 棚田純子 綿貫のぼら

役割：外部専門家やアートの専門家の立場から事業への助言、検証と評価

第1回 2020年6月7日(日) 19:00～21:00

自己紹介 事業の目的 概要 めざすこと意見交換や交流

第2回 2020年12月15日(火) 19:00～21:00

進捗報告 意見交流 報告を受けて推進委員より 社会発信

第3回 2021年2月25日(木) 14:00～15:30

WAM 事業成果報告会の報告とまとめ・この事業の成果と課題



③ワークショップ実施体制

実施個所10か所に各2名のコーディネーター(当日スタッフ兼)配置。下見打合せ 当日実施

6. 乳幼児対象の作品提供およびパフォーマー

納富俊郎(人形劇団ののはな 人形劇) 大沢 愛 (特)表現教育研究所 わらべうた)

大森靖枝(劇団風の子 劇あそび) 安西真幸(ダンスパフォーマー ダンス)

川中美樹(山の音楽舎 わらべうた) 歌子さん(リーフ企画 歌と楽器)

7. 実施実績

コロナ禍で実施計画の変更や延期が余儀なくされた。夏前に実施先を決め、インフルエンザを避けて10月くらいまでに事業をほぼ終える予定だったが、コロナ感染拡大で今年度は様相が一変した。

行政も施設もこの事業趣旨に賛同し、やりたい気持ちはあっても、コロナ感染防止ガイドラインの基、実施するか否かの判断が難しかった。結果、参加者の人数を限定的にする等工夫をして、コロナ禍を縫うように10か所の実施と、提案した6作品のワークがすべて実現した。

| | 実施施設 | 実施日 実施時間 | プログラム名 パフォーマー名 | 参加者数 246人 乳幼児 102人 大人 144人 |
|----|------------------------|--|-------------------------------------|---|
| 1 | 千葉県 おゆみ野中央子育てリラックス館 | 10/26(月) 11:00~11:50 | 「にこにこげきじょう」 納富俊郎・納富祥子 | 乳幼児9人(11か月:1人 1歳:6人 2歳:1人 3才:1人) 大人12人(保護者:9人 施設職員:3人) |
| 2 | 白井市 西白井コミュニティープラザ | 10/28(水) 10:30~11:30 | 「にこにこげきじょう」 納富俊郎・納富祥子 | 乳幼児15人(0歳:6人 1歳:3人 2歳:3人 3才:3人) 大人16人(保護者:14人 地域:2人) |
| 3 | 習志野市 こどもセンター | 10/30(金) 10:40~11:20 | 「にこにこげきじょう」 納富俊郎・納富祥子 | 乳幼児11人(1歳児:5人 2歳児:5人 4歳1人) 大人17人(保護者10人 施設 職員5人 行政2人) |
| 4 | 成田市 子ども館 なかよしひろば | 11/17(火) 10:30~11:00 11:00~11:30 | わらべうたあそび 「うたとおはなしのじかん」 大沢 愛 | 乳幼児9人(0歳児5人 1 歳児4人) 大人17人(保護者9人 施設関 係者5人 行政1人 地域2人) |
| 5 | 袖ヶ浦市 神納コミュニティセンター | 11/24(火) 11:00~11:40 | 「おやこでいっしょにダン スあそび!」安西 真幸 | 乳幼児7人(0歳:3人 1歳:1人 2歳:3人) 大人12人(保護者:7人 保育 士:1人 地域:4人) |
| 6 | 富里市 ひよしだい保育園 | 11/26(木) 10:00~10:40 | 「みんなでいっしょに劇あ そび」 大森 靖枝 | 乳幼児14人(0歳:4人 1歳:6人 2歳:4人) 大人7人(保育士:7人) |
| 7 | 印西市 そうふけつどいの広場 | 12/4(金) 10:30~11:10 | わらべうたあそび 「うたとおはなしのじかん」 大沢 愛 | 乳幼児9人(0歳:3人 1歳:4 人 3歳:2人) 大人19人(保護者9人施設関係 者6人 行政1人 地域:3人) |
| 8 | 野田市 北コミュニティーセンター | 12/4(金) 10:00~11:40 | 「わらべうたで あ・そ・ ぼ♪」 川中 美樹 | 乳幼児11人(0歳:5人 1歳:4 人 2歳:1人 3歳:1人(上の子で 最初のみ参加)) 大人16人(保護者:11人 施設 職員:4人 行政:1人) |
| 9 | 佐倉市 佐倉臼井老幼の館 | 12/8(火) 10:15~11:00 | 「歌子さんのはじめてのコ ンサート」 歌子さん ぴんたろー | 乳幼児11人(1歳未満4人 1 歳4人 2歳2人 3歳1人) 大人20人(母親10人 施設 職員7人 行政1人 地域2人) |
| 10 | 松戸市 おやこ DE 広場小金原 | 12/24(木) 10:00~10:40 | わらべうたあそび 「うたとおはなしのじかん」 大沢 愛 | 乳幼児6人(1歳未満3人 1 歳2人 2歳1人) 大人8人(母親5人 施設職 員3人) |

8. 事業の成果と課題

- ① コロナ禍の中で予定の 10 か所での実施が実現し、参加者数 246 人（乳幼児 102 人 大人 144 人）の参加者だった。乳幼児 102 人のうち、7 カ月以上 2 歳未満が全体の 85%を占め、乳幼児対象者を計画どおり絞って実施できた。
- ② 乳幼児を研究し尽くして創られたプロのパフォーマーによる 6 作品を提供し、6 作品すべて実施できた。どの作品もクオリティーが高く、参加型で保護者が遊びのスキルを嬉しそうに学び、家に帰ってからの遊びの継続につながった。
- ③ 保護者（82 名）、施設職員・行政・コーディネーター（46 名）のアンケート（複数回答）や自由記述からカテゴリーに分け整理して分析した。以下、客観的な分析結果から「プロによる芸術的アプローチのプログラムは子育て支援として有効であり期待できる」ということが示唆された。

<アンケートから>

■参加した保護者の実感⇒94%が実感的に高く評価し、6%が疲労感を感じた。

楽しかった 88%・癒された 62%・うれしかった 48%・安心できた 21%・ほっとした 24%。疲れた 4%・気が気でなかった 2%

■保護者が実感する子どもの表情⇒楽しさの実感や積極的な参加の実感 93%、消極的な参加は 7%。

よく笑っていた 31%・じっとみていた 54%・あきたようだ 7%・まねをしていた 19%・みとれていた 17%・興味をもった 28%・普段みられないような動きをした 3%

■ワークショップへの参加意欲や期待⇒またみたい・子どもにみせたい 98%。高い期待感がある。

<自由記述から>

■親からは、わが子のワークへの積極的な反応や笑顔などの発見や気づきの記述、親自身のための有意義な時間になったことや子育てへのおもしろさや喜びの記述が多くされている。一方子どもがぐずったり、迷惑をかけたのでは？と周りを気にして気持ちが不安定になった記述もあった。

■施設職員・行政・コーディネーターからは、遊びに反応する乳幼児の姿を驚きと感動をもって受け止めている記述、親子の応答的な関りからの愛着形成へつながる実感の記述、プロの作品の力・芸術力が親の遊びのスキルを上げ親の子育て力向上になるとの記述、特にコロナ禍での有効な支援になるとの記述や課題と留意点の記述と、今年度ならではの記述もあった。

- ④ 「乳幼児期の育ちの大事さ」について、54 市町村の子育て支援課、支援施設、子育て関係者の方々にたくさん語り、私たちの願いや、事業趣旨への理解や賛同を得ることができ、「共感のネットワーク」を拡げることができた。
- ⑤ 成果報告会では、各立場の方々と一緒に検証や共有、この事業の効果や成果も確認でき、提言も示すことができた。行政との連携の強化や子育て支援施策への反映に向けて、一步を踏み出すことができた。
- ⑤ 課題は、乳幼児を持つ保護者の現状の丁寧なヒアリングをすること、当日不安定な親子への接し方について、どのような支援や姿勢が望ましいのかを、コーディネーターやスタッフで研鑽し続ける。

<実施をしていく上で大事にしたこと>

●信頼関係があつてこその実施

プロのパフォーマーや作品への信頼、行政・実施団体施設とは直接訪問し、よく聴き、よく説明し、誠実に丁寧な対応する。特に今年度はコロナ感染防止対策の徹底等、安心安全の保証への信頼。

●コーディネーターの資質向上

実施施設とパフォーマーをつないで一番ベストな調整に努めるのはコーディネーター。子ども劇場千葉県センターにいる 15 人のコーディネーターは、研鑽し合いさらなる専門性を身につけていく。

9. アンケート分析 (分析者：大学教員・保育士・子ども劇場千葉県センタースタッフによる)

令和2年度WAM助成事業

0歳～2歳の親が子どもの成長・発達に寄り添い笑顔になる支援事業

アンケートデータによる報告

※アンケート・画像の権利転讓・複製を固く禁じます

～実施内容～

2021年2月10日までに終了した10カ所

- 参加人数：246人
 - 内訳：保護者84人 子ども102人
 - 施設職員・行政・コーディネーター60人
- 子どもの年齢：0～6か月(6人)・7～12か月(27人) 1才(39人)・2才(21人)・3才以上(9人)
- 保護者用アンケート記載者：母親81人 父親1人

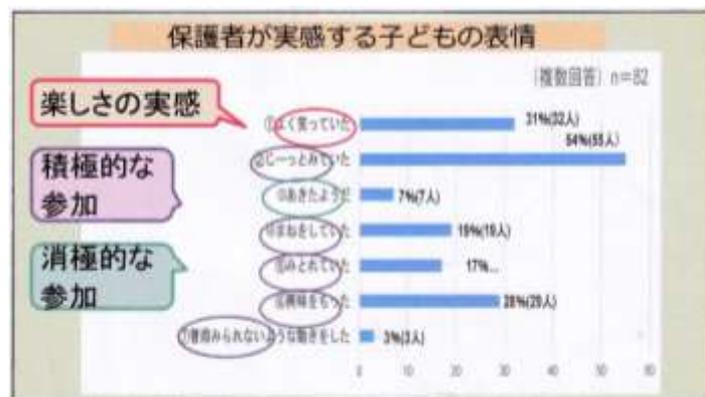
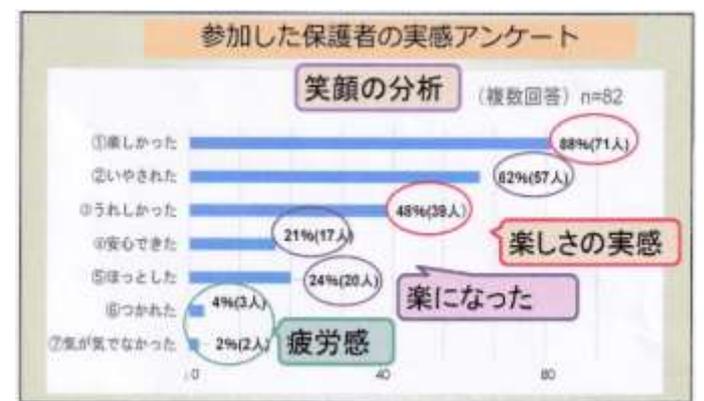
7か月以上2歳児未満が全体の85.2%を占める

ワークショップ内容

- 歌と演奏
- わらべうた
- 劇あそび
- 人形劇
- ダンス

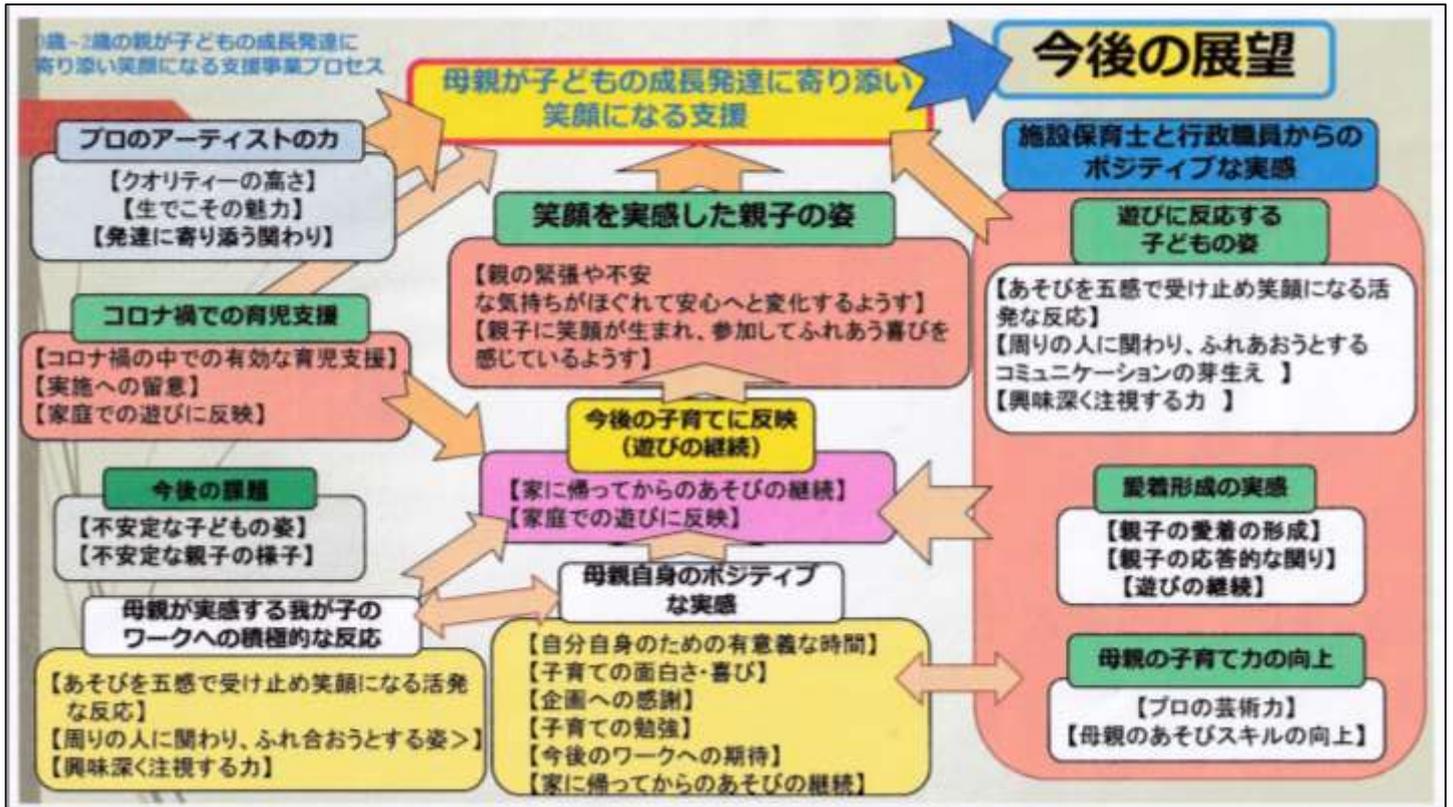
※講師6名

参加型のワーク



自由記述の分析結果

- ◆分析方法：KJ法
 - 分析者(県センタースタッフ・保育士・大学教員の計3名)
- ◆結果
 - 保護者：10のカテゴリー、2つのコアカテゴリー
 - 行政・保育士：15のカテゴリー、5つのコアカテゴリー
- ◆別添の資料参照



分析者
 大学教員：仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子
 保育士：白鳥みゆき
 (特)子ども劇場千葉県センター：岡田泰子

10. 1年目の「提言」…客観的なアンケート分析等から

提言

プロの芸術家による本ワークショップは、質的に優れた内容であり、参加者の次回への参加意欲、期待も大きいことが明らかになった。また、家庭で子育てしている保護者、特に母親の育児支援にも繋がることを示唆された。

今後、この様なワークショップが継続的に実施されることは、コロナ禍の中、家庭で育児をしている母親への有効な子育て支援となるであろう。地域の子育て支援の一環として、行政施策にも繋げていくことが求められる。

11. 自由記述

令和2年度WAM助成事業「0歳～2歳の親が子どもの成長発達に寄り添い笑顔になる支援」事業
保護者アンケート「自由記述欄」回答の分類(書いた人:母親81人 父親1人)

| | 【カテゴリ】 | ＜自由記述＞ |
|----------------------|--|--|
| I 親が実感する積極的な反応のワークへの | ①あそびを五感で受け止め笑顔になる活発な反応 | <ul style="list-style-type: none"> ・30分もの間、しっかりと見ることができ、びっくり・イモムシが出たりかたりかたりした時、楽しそうにニコニコ・よく見ていた・わんわん、ニャー、おはなど知っている単語を発した・大好きな歌(トトロ ノブ力)では積極的に踊っていました ・ゆびさしたり手をふったり、何かに反応していた・にこにこしていた 指さして、「○○だね」と話しながら見ていた ・ベルの音が好きなこと。とてもよい笑顔だった・マネをよくする・思った以上にまねていて嬉しそうだった ・ふだんみられないような動きをした・音がかかると楽しそうにうなずいたり、飛行機をすごく気に入っていた・真似をして一緒にやろうとしていた ・動きを正確に真似ることができていた・見て学んでいるのが、良く分かった ・おにぎり食べさせようとしたらバクバクしていた・「んこ～」のところで口まねをして声を出そうとしていた「んこ～」とはなしかけとでよろこんでいた ・いきいきしていた・楽しんでおり笑顔が見られた・ジャンプの時にうれしそうに手をバタバタ とんでるつもりになっていた ・名前を呼ばれてニコニコしていて、自分の名前がわかっているのかなと思った・久しぶりにたくさんの人と見れたことによるこんでいた ・母親の顔をみてかけよくなって来てくれた・人や行動に興味を持つ・少し不安になると顔見知りの赤ちゃんに近づいていった ・母に合わせて私が表現することでニコニコしながら見ていた・音楽が鳴るとおしりを上げてうれしそうだった ・人や周りに興味を持っていた・とても良く笑っていた・周りの人たちを見まわっていた・金髪全体をきよきよろしていた・目がキラキラになっていた ・行動が活発になっていた・みんなでやると楽しそう・少し前ならなれない場所だとすつとぐずっていたが、すぐ楽しめていた |
| II 親自身のポジティブな実感 | <ul style="list-style-type: none"> ③興味深く注視する力 ④不安定な子どもの姿 ①子育ての面白さ・喜び ②自分自身のための有意義な時間 ③家に帰ってからのあそびの継続 ④企画への感謝 ⑤子育ての勉強 ⑥今後のワークへの期待 | <ul style="list-style-type: none"> ・人形だけでなく、スポンジのくくくによいよい「ね」や「く」のうごきにすごく集中・興味を持ってじーっと見ている姿を見られた ・きちんとみられなくてびっくりしてしまったり、最後の方であきたのか、抱っこをほしがった・少しぐずった・心打ちとけるまで時間がかった ・年上の子と遊ぶ機会がないので要縮してしまうのかなと、楽しい人形劇だったのでにぎちんと見られなくてごめんなさい ・わくわくした・2歳5カ月になって前よりも集中して見るようになり参加していると感じ成長がうれしかった・きちんとみて笑っていたのでよかったです ・子供や保護者も自然と体が動き、表現する楽しさを実感できた・泣かずにみられてよかったです ・コロナで何もエンタメをみせられなかったのですごくうれしかったです・久しぶりに親子でたのしくいられる時間をすごせたいと思いました ・こういうものに初めて参加しましたが、母として楽しかったので、良い日になりました・親も見入っていました・親子とも新しい経験ができました ・今日は参加できてよかったです・「ね」の文字だけなのに動きでねこのように見えて感動した・人形のかわいい動きにとってもいいやされた ・私の方がいいやられてしまいました・鼓楽の音に癒された、我が家にもほしい ・人形を使ってあそびたい・声色をかえて人形あそびをする・スポンジを動かすのがおもしろそう。紙袋人形を作ってみたい ・袋のお人形を作って、ままごとの食材を食べさせるマネをしたいです・身近なものでこんな楽しく遊べることを知れてよかったです ・封筒や紙コップなど身近なものの使い方を教えてもらえたので実演したい・今回行ったダンスを家でも行いたいと思います ・お名前呼んで「はいーい」やりたいたいと思います・1歳2か月・名前を呼んで遊ぶ、やりとりの遊びをやってみようと思いました ・ダンスが苦手な私も楽しく参加できた・マイベースな娘にも優しく対応してくださってうれしかった ・このような機会を作っていたらありがたいです・楽しかったです・またぜひ見たいです・ありがとうございました ・いろいろ配慮して頂けたことに感謝しています・楽しく過ごせました・すこすこきてきな時間を過ごせました ・ほつぺを触ったり、ジャンプしたり、普段の動きに効果音をつけてダンスっぽくほくほくするのはおもしろいと思った・とても参考になった ・人形や紙袋のお土産が嬉しいです・遊んでみます・普段の子育てを振り返る時間になりました ・これまで家の中で2人で行っていたことが多くても、二人触れ合ってわらべ歌をする事はあまりなかったもので、これを機に沢山歌って触れ合いたいです ・リズムがとれるものは自然界にもたくさんあると思ったので、色々なもので歌ったりできることをおしえたいと思った ・ぜひまたきてください・またぜひ見たいです ・今日ご紹介いただいた曲の歌詞カード等があれば家でもやるとき参考にしたいです・覚えきれなかったもので、動画とかアップしてほしいです |

| | | |
|------------------|-----------------------|---|
| <p>Ⅲ 愛着形成の実感</p> | <p>① 親子の愛着の形成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・親子で同じものを観て共有の時間や頂点を持つ事でことで一体になれる共感体験を持つ ・スキップができるので心の安定に繋がる ・腕にのり、抱っこされて観ることが親子でまったりほっこりすることの共有で、肌と肌のふれあいでスキップになり愛着形成が図れる ・子どもの様子を肌で感じることが親子での疲れを忘れられる一瞬になり、子どもを改めて可愛いと思える機会になる ・子守歌などの今しかできない愛情表現がとも良く、お母さんの愛情を身体いっぱい感じているように見受けられた ・びっぴりしたり楽しかったことがある度ふりむいてお母さんに抱っこをせがむ様子がたくさん見られ、受け止めるお母さんも満たされている様子が見れた |
| | <p>② 親子の応答的なかわり</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたは親子の自然なふれ合いが多くなり一緒にしっぺり遊ぶことが出来、遊ぶことで子供の事を知ることが出来る ・子の反応に親が応えている ・ふれあうことが気持ちよさそう目で合わせてゆったりとコミュニケーションがとれている ・話の内容について、お子さんに「今〇〇したね」等伝えていく姿があった |
| | <p>③ 遊びの継続</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぶことで子どもの興味を感じることが出来、終わってからもお話の続きを楽しめた |
| | <p>④ 不安定な子どもの様子</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・じっと座って見てられない子ども(笑顔は動きながらも部分部分みている)の親は座っていないという状況からそれをマイナス面と捉え見ていなかったと結論づけ、保育者自身も楽しめない様子だった ・じっとしてられない我が子を制止しようとして、周囲に気を遣ってか席を離れていた ・関心を示さない我が子に無表情になっている親もいた「耳をきいているからいいじようぶ！ちゃんと見てるよ！」と声かけした |
| | <p>Ⅳ 親の子育て力の向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・声のトーン、早さ、表情、絶妙な間とり方等引き付ける力がすこ、皆、引き込まれていく ・見た事のない楽器、丁寧な舞台づくり、いつもとは別の空間を作り出す妻さ ・参加者に合わせることで出来る技量と高い芸術力、講師の「いいね」「じようぶ」とかける言葉の力、部分から全体をつなげていく構成力のすごさ ・身近なものを使ってこんな風に遊べるんだと子どもを引き付けられる力の素晴らしさ、子どもの興味をそその工夫が随所に含まれていた ・次は何だろう？どうなる？どうなる？とワクワクの気持ちや想像力をかきたてられる感じの雰囲気や空気感 ・ウレタン人形、熊コップなどアイデア、硬い表情や泣いていた子どもの心を惹きつけ集まらせる話術や内容の切り替える間合い ・長すぎず短すぎずテンポよくすすんでいくのはしげ絵本のように動きや言葉が面白く、子どもたちの心をくすぐるような魅力あるパフォーマンス ・シンプルな動きの中に状況を想像させる表現力と柔らかく美しい歌声に高い芸術力を感じ引き込まれた ・「みんなちがってみんなみんないい」を目の前で見せてもらった。お母さんの育力が強くなっていくようだった |
| | <p>② 母親のあそびスキルの向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・遊び方を見せながら教えてもらうことで、家でも遊んでみようとする思いが親に芽生えども効果があった ・身近なものを使って楽しく遊べることをママたちが知ることができた ・これからは親と子が家であそべるきっかけをつくったと思う ・わらべうたを親が子に伝えられたら素敵だと思う ・外出などが制限されている状況なので親は助かる ・ゲーム中心の世の中で、小さい頃から親子で、仲間と身体を使って楽しんで来た経験は大きな財産になる ・日頃の保育の参考にしたい ・集中力が身につく、人の話をきけるようになる、友達と仲良く遊べるなどの効果がある ・人形ひとつで楽しく操縦することができている ・遊びは大人になっても大切なコミュニケーションの用とを得ることが出来る ・月齢にあったあそびでした ・あそびうたはいつでもどこでもお母さんといっしょに出来る ・現代、わらべうたに触れることが遊びの幅が広がると思う ・ちよとしたり工夫をいろいろ考えてみるのも楽しいと思う ・30分は10歳～2歳にはMAXだが存分に楽しめた ・ひとつひとつの演目の時間がちょうどよい ・コロナでなかったらもっと多くの親子に楽しんでもらえたのに残念 ・コロナ禍で不安もありましたが大変貴重な時間になった ・楽しい時間を設けて頂きありがとうございました ・コロナ禍で、家の中に閉じこもりがちになった親子にとって外の空気に触れるよい機会、親の心の内を出せる良い機会だった ・コロナ感染防止対策など、気苦労も多い中の開催で大変だったことと思う |
| | <p>Ⅴ 育児支援</p> | |
| | <p>① コロナ禍での有効な支援</p> | |

| | |
|-------------|--|
| ②家庭での遊びに反映 | <ul style="list-style-type: none"> ・夕食時など等家での会話や遊びが濃くなる ・施設スタッフとしてもあそびなど学びたい ・日常の家での遊び、施設でのあそびの業務に活かせる うれしい |
| ③実施への課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の時間が長すぎた ・もつとメリハリをつける方がよい ・楽器の破片が2〜3個見つかり要注意 ・楽器を触る時、密になってしまっても不安だった |

令和2年度 WAM助成事業「0歳～2歳の親が子どもの成長発達に寄り添い笑顔になる支援」事業
実施団体スタッフ・実施団体コーディネーターの「自由記述」

| | |
|---------------|---|
| 【カテゴリー】 | <p><自由記述></p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の変化、細かな動作表現、演目の展開など、子どもを引き付ける力、釘付けにする力、や興味をそそる工夫がなされていて感動した ・人形劇のクオリティーの高さがすごい ・すばらしい！ 声もとてもしきやしく心地いい、間のとり方が絶妙！ ・芸術力は高いほど効果がある ・保育士としてはぜひ学びたいと思う ・こどもたちの動きやママとの触れ合いをじょうずに作り出す引き出しがすごい ・そのセンスや音に対するイメージ力、部分から全体につなげていく構成力、そこにプロに力を感じた ・ダンス、音楽と同じくらいいいね、「じょうず！」の言葉の力もプロを感じた ・黒子ではなく、演じる方が見えていて観近感がわきました ・三密を避けたプログラムと歌を選別されていてさすがだと思います ・人形の演じ方を学んだ チョウチョの作り方を早速周りに伝えたい |
| ①クオリティーの高さ | <ul style="list-style-type: none"> ・ユーチューブでの子育てが心配、刺激の強いものをまよっちゆうみている。今日、やっぱり生だと思った ・身近なもので遊べる作品の紹介や動かし方が目の前であり、後でお母さんたちが遊べる。生でそのよさがあった ・ぐずり出した子がいて退室されたことで、パフォーマーは、「ちよつとしたことと子どものタイミングをずらし、気分を崩してしまおうことがある」と、受け止めていた ・子どもたちよりも前に、思わず保育士が吹きだし、楽しそうに笑う様子が印象的 ・ママ達に対してのメッセージが歌や言葉に出ている、人柄も出ている |
| ②生(ナマ)でこそその魅力 | <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマー・スタッフ共コロナ感染防止対策を万全にして臨んだ。生だからこそその緊張感もあった ・スキルを覚えてもらう時、三密に気を付けていた ・三密を避けたプログラム。(①と一部重複) |
| ③コロナ禍での配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの反応をよくみてくみとりながら会話をし、安心して心を開いていく乳幼児たち。非常によく練られたプログラムだった ・月齢に合わせたわかりやすい作品で、子どもたちの気持ちや初めの緊張から、だんだんに元気がわいてきた ・子どもが泣いていても一定の流れてゆくりと行われました。そうした子どもに寄り添って演じていました ・乳幼児の発達に0歳～2歳では月齢ですごく違うことを、パフォーマーのかかわり方やプログラムの内容をみてよくわかりました ・子どもたちにさりげなくかづき、「赤ちゃんにはこうやってやる」といいよと子どもの年齢に合わせて、音出しや人形使いをやっていました |

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6サンコート新千葉102号
TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263
E-Mail: kidchiba@illy.ocn.ne.jp <http://chiba.gekijou.org/>
※テキスト・画像の無断転載・複製を固く禁じます

成果報告会 赤ちゃんの♡力でみんなが笑顔に！

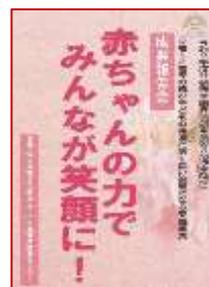
目的：事業の成果等を社会に発信する。

日時：2021年2月10日(火) 14:25～16:10

リアル(千葉市民会館会議室)&リモート(ZOOM)

参加者：リアル7人 リモート84人 計91人

プログラム：



- 実施会場で協力をいただいた団体と参加した母親から 感じたリアル その日の気持ち
 - ①(特)子どもるーぷ袖ヶ浦：田中直子さん 参加した母親：上村春佳さん
 - ②白井子ども劇場：森内由紀さん 参加した母親からの手紙
 - ③(特)子育てネットワークゆっくっく：板垣光子さん 参加した母親からの手紙
- パフォーマーとして 乳幼児のための作品 プロの姿勢 保護者に伝えたいこと、
 - ①(特)表現教育研究所 大沢愛さん ②人形劇団ののはな 納富俊郎さん
- 施設長・保育士 乳幼児・保護者の様子 プロの力 子育て支援施策への期待
 - ①ひよしだい保育園園長：松本善美さん ②白井老幼の館インストラクター：伊藤芳恵さん
- 行政：この事業の価値 子育て支援施策として 子育て支援での連携事業の必要性
成田市子育て支援課主幹高仲浩一さん 野田市子育て支援課係長山崎正浩さんからのメッセージ
- 推進委員：客観性のある事業のまとめと評価
 - ①仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子さん②(特)子ども劇場千葉県センター 中村雪江さん
- 意見交換

発表者の発表内容概要

実施会場からのリアル

会場：袖ヶ浦市 神納コミュニティセンター
作品名：【おやこでいっしょにダンスあそび！】
パフォーマー：安西真幸

◆まあちゃんは、0歳の赤ちゃんの様子をじっくり見て、言葉少なめで動きは大きく、子どもと同じ視線でかかっていた。いろいろな効果音が流れ、親子で触れ合う遊びの要素が加わり「ほっぺにキゅ、床をゴロゴロ、ひこうきブーン」などをし、親子で体を動かした。「さんぽ」の曲がかかり、今までの動きがすべてダンスになった。日常では味わえない音やリズムを感じ、満足感や達成感に満たされ、ママたちの気持ちを解放してくれた。(協力団体支援者：田中直子さん)

◆2歳の姉と0歳の男の子と参加しダンスは初めて。コロナで友達と遊ぶ機会もなく、場所を作ってくれたこと有難かった。音と動きをリンクさせ、気がついたらダンスになっていた。大人が楽しく踊っている姿を子どもに見せられ、新鮮で目と耳で刺激を受けたよう。姉2歳は床ゴロゴロが気に入った。こういう音に反応するんだという発見と、家に帰ってから、色々な音でダンスを試してみたりした。体を動かすことが本当に楽しいとわかった。機会があればまたぜひ参加したい。(参加した母親：上村春佳さん)

実施会場からのリアル

会場：西白井コミュニティプラザ
作品：人形劇【にこにこげきじょう】
パフォーマー：納富俊郎・祥子

◆それぞれレジャーシートを敷き間隔を空けた。人形劇が始まると、最初からにこにこ顔。0歳からの親子で、人形劇を生で見るのは初めてで、0歳の子どもも、出てくる動物や音に反応して集中してよくみていた。お母さんたちも驚きだったようだ。身近なものでこんなに楽しく遊べるのを知った。テレビと違って、親子で一緒に生の舞台を楽しむ良さと必要性を感じた。子どもの心の成長につながると思っている。(協力団体支援者：森内由紀さん)

◆身近にあるもので楽しく遊べることを学べ、表現の仕方でさらに子どもたちが楽しめることがわかりました。育児だけでなく仕事復帰後も、自分の仕事に活かそうと有意義な時間が過ごせました。頂いた人形で家で遊びました。大喜びで遊んでくれましたよ。感染防止対策をしっかりと、座布団を用意してくれたり、至れり尽くせりでとても感激。機会があったらぜひ参加したいです。(参加した8か月の子どもを持つ母親からの手紙)

実施会場からのリアル

実施会場：野田北コミュニティセンター

作品名：【わらべうたで あ・そ・ぼ♪】

パフォーマー：川中美樹

◆子どもの成長発達にとって、わらべうたはとても大事だと日頃から感じている。子どもたちはドキッとするほどピカッと輝いた笑顔だった。リズムよく体に入り自然に手足が動いていくわらべうたは、親子を笑顔にし、会話になっていき、また、伝承の意味もある。わらべうたを知らない世代の親子が、新しい世界を体験できた。マスクをしていてもオーバーなくらいのジェスチャー肉声で表現し、ちょっとした家事の合間に口ずさんだり、ぐずった時に歌ったりと、日常生活の中に溶け込んでいくことを願っている。

(協力団体支援者：板垣光子)

◆心温まる時間をありがとうございました。コロナでお友達とも会えず、子どもと二人で過ごしていた私にとってよい時間でした。わらべうたのよさは「①楽しみながらいつの間にか言葉や数を覚える。②口ずさみややすさ。泣き止んだり笑ってくれたり子どもの反応が返ってきてホッとする。③コミュニケーションを育む。当日知らない人とも自然と関わり合いがもてた。」ことに気づきました。今後もまたぜひ参加したいです。

(参加した母親からの手紙)

わらべうたワーク作品提供者・パフォーマーより

(特)表現教育研究所 大沢 愛さん

◆実演家として活動を通していつも思うことは、人は生まれながらにして主体的だということ。赤ちゃんは産道を通して自らの力で生まれ、「生まれ出ずる命」は自ら発する行為です。赤ちゃんの姿は本当に主体的で、じっと見つめる姿や、耳を澄まし全身で空気や気配を感じとる様子、対峙する大人の顔をみつめその感情を赤ちゃんの方が読み取っている。それらははっきりと見てとれ、本当に幾度出会っても感動に値する。アートが確実に体と心に沁みこんでいき、人が人として生きる根っ子を確かに育てていると実感し、乳幼児のための舞台芸術はそういう質のものであると思う。これらは大人たちが「待つ」ことで保障される。わらべうたは見て真似る遊びです。はなから子どもの手を取ってやらせることと、待ちながら何度でも大人がやってみせ、ある日手を動かしてやるようになることとは、似て非なることです。赤ちゃんはあらゆる情報を五感で捉えて味わっています。

ベイビーシアターの究極の目的は、「生まれてきた命を祝福すること、赤ちゃんとその傍らにいる大人へエールを贈り、幸せな人生のはじまりを喜び合うこと」が役割であり願いであり夢です。ひとりの赤ちゃんと出会うために、大勢の大人がたずさわること、必ず社会をよくすることに結びつく「仕組み」になると思う。

人形劇ワーク作品提供者・パフォーマーより

人形劇団「ののはな」主宰 納富俊郎さん

◆子育て支援を深く考える機会になった。子育て支援とは、「子どもたちが豊かに成長し、家族が安心して子育てができるように」とある。子どもは自分で育とうとする力があり、乳幼児も自ら育とうとする欲求と可能性がある。子育て・親育ちであり、育ちこそが大事です。やってあげるのではなく、育つ力をもった子どもの力を伸ばし、育つ力を持っている親を、後押ししてあげるのが子育て支援だと思う。子どもの幸せは家庭の中にあり、そこから生まれてくる。人形劇を見てただ楽しかっただけではなく、家に帰ってから子どもと身近な材料で作ったり遊んだり楽しめるよう、心に残る出会いにしたいとの思いで取り組んでいる。命を発見しそれを取り出し、人形劇で表現している。顔を見ながらのふれあいとコミュニケーションを大切に、参加型で観るだけでなく体験型のワークです。

心配なのは小さいころからスマホ、タブレット、デジタル機器の長時間使用です。乳幼児期は特に脳が大きく発達する時期です。乳幼児がもっている自分で育つ力を大きくすることこそが大切です。

実施施設のインストラクターより

実施会場：佐倉市 臼井老幼の館

作品名：歌子さんの初めてのコンサート

パフォーマー：歌子さん ぴんたろー

◆「はじめまして」の歌ではじまり、歌の中でお子さん全員の名前を呼んでくれたことで、すーっと入っていった。シャボン玉、大型絵本、親子でジャンプ等、子どもお母さんが楽しんでた。アフリカの楽器を奏でたぴんたろーさんは、間のとり方や子どもたちの引き付け方が素晴らしく勉強になった。子どもたちが楽器に引き付けられ楽器の力も感じた。ぴんたろーさんが「※△×@」と訳のわからない言葉で赤ちゃんに語りかけると「う〜う〜」と赤ちゃんが返し、まるで赤ちゃんとは会話しているようだった。プロのすばらしさを感じた。お母さん達はとても楽しく癒されたようだインストラクターの学びの場にもなり、意欲につながった。コロナで消極的になっていたが、このコンサート以降、気持ちも前向きに変化した。現在活気のある受け入れをし、利用者が増えている。

(インストラクター伊藤芳恵さん)

実施施設の保育士等より

実施会場：ひよしだい保育園

作品名：みんなでいっしょに劇あそび

パフォーマー：大森靖枝

◆0歳児が4名いて心配していたが、温かい雰囲気と優しい語りかけ、身近な材料を使ってテンポの良い話の展開であつという間に興味をもち、みんながいい笑顔になって40分間参加できた。大森さんの呼び名「おおちゃん」に親しみを感じお話の世界に入りやすかった。0歳は保育者の膝の上で動くものに目を向け、かわいいものや音に反応していた。

鍵盤ハーモニカ、マヨネーズの容器の楽器に、1～2歳は

「どこから音が出ているの?」と、声をあげる。元気に「は～い」と返事をし、声を出し身を乗り出して夢中になっていた。それを見た保育者も笑顔になり癒された。前に出てお手伝いをしたり、保育士が参加する場もあった。保育士も身近な紙袋やマヨネーズの容器などで遊べることを発見できた。今度は、お母さんもいっしょに参加できたらと思います。

(園長 松本善美さん)

行政からのメッセージ

成田市子育て支援課主幹 高仲浩一さん

◆成田市子ども館のなかよしひろば（地域子育て支援拠点）において、令和2年11月17日に大沢愛さんによる「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」を実施していただきました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響にり、施設の閉所や、イベントの開催が制限されていたことから、様々な体験の場を十分に提供できない状況が続いておりました。そのような中、本格的なわらべうたあそびに触れる、貴重な体験の場を提供いただき、感謝申し上げます。

わらべうたでは、柔らかい声、豊かな表情、体の動きを使い、自然な流れで、参加していた乳幼児をリラックスさせ、興味を上手に引き付けている様子でした。大変すばらしい声と雰囲気、心地よい時間を過ごさせていただきました。今後におきましても、機会がございましたら、乳幼児への体験の場の提供について、連携させていただきたく存じます。今回は、貴重な体験の場を提供いただき、誠にありがとうございました。

行政からのメッセージ

野田市子育て支援課係長 山崎正浩さん

◆12月4日に開催された、野田市の「わらべうたであ・そ・ぼ♪」では11人の幼児とその保護者が2回にわけて参加されました。感染症拡大防止のため中止も検討いたしましたが、参加人数を制限し、十分な感染症拡大防止策を施し実施することができました。ひとえに主催する方の努力によるものと思っております、感謝申し上げます。参加された方は、親子とも楽しんでおり、みなさまの笑顔が見られたこと、実施できてよかったと思っております。これからも育児の不安を取り除き、健全な育成を促すとともに笑顔になれるイベントを数多く開催できるよう祈念いたします。

推進プロジェクトより客観的評価

◆膨大なアンケートをまとめた報告です。10か所での参加者は246人・アンケート数は128人。子どもの参加102人のうち0歳～2歳未満が全体の85.2%を占めた。本事業の目的である「笑顔」の分析をした。子どもの表情と笑顔の親の実感は5割から9割。5割以上8割の子どもが積極的な参加だった。次回の参加の意欲や期待は99%。自由記述はカテゴリー化しKJ法により分析を行った。

<※詳細は5ページから10ページ参照>

まとめ クオリティーの高いプロのアーティストのワークに親子で参加することにより、わが子のワークへの積極的な反応が見られ、親自身もポジティブな実感が得られた。また、親子で関り笑顔で触れ合いや遊ぶ中、遊びを見守る保育士からは愛着形成に寄与するワークであることが示された。家庭に帰ってから子どもとの遊びへの継続が示されたこと等から、本事業は親の子育て力向上に繋がること示唆された。

提言 本事業は質的にすぐれた内容であり、継続的に実施されることでコロナ禍の中、有効な子育て支援となるであろう。今後、地域の子育て支援の一環として、行政施策にもつなげていくことが求められる。

(仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子さん)

推進プロジェクトより成果の報告

◆信頼関係があつてこそできた事業。プロの作品への信頼、行政と実施団体との信頼。今年度はコロナ感染防止対策の徹底という安全・安心への信頼。また、コーディネーターとしては試され学ぶことが多かった。成果として、①赤ちゃんは生まれもって力を持っている。堂々としていて驚くばかりの感動の連続だった。②プロによる芸術的アプローチのプログラムは子育て支援になると実感したこと。③「乳幼児期の大事さ」について、市町村行政、実施施設、子育て関係者など、たくさんの人と話すことができ、共感のネットワークが広がったこと。「提言」を活かし今後、行政との連携事業の強化、子育て支援施策への反映にむけて、一步を踏み出した。

(子ども劇場千葉県センター 中村雪江さん)

チャットの声



★この事業の全容を知ることが出来、本日参加できてよかったと思っています。そして、改めてこのプロジェクトに参加させていただけた事を、ありがたく感じております。

★ののさんはなさんに習志野に来ていただきました。コロナ対策で市の催しが全て中止されている中、制約の多い中でしたが、いつもの楽しい公演をしていただき本当に有難うございました。終演後、センターの先生方への工作のレクチャーをしていただきセンターに笑い声が響いていました。行政の方々もその光景に目を細めておられました。

チャットの声

★ ベイビーシアター、子育て支援活動は大事な活動だということは分かっていますが、地道に行っていますが、分析・データ化することで、自信を持つことができました。

★大森がワークショップで大変お世話になりました。大森から当日保育園の先生方やコーディネーターの方が子どもたちを安心させるように接していただきとても嬉しかったと聞いております。子どもたちのことをおもう大人がたくさんいることを改めて実感し、とても嬉しく思います。



意見交流

*本当に聞いてほしかった親子が中に入れず聞けなかった。そういう場合、どうすればいいか？

*入れなかったけど、廊下の所にいた。それで十分。他の子と同じにすることはしない。入れないことをいけないことにしない。

*鎌ヶ谷市は公設公営施設でコロナで実施できなかった。こういう形でできることがわかった。来年ぜひやりたい。

当日アンケートより抜粋

- 皆さんの報告やアンケート分析・提言からいろいろなことが見えてきました。改めて素晴らしい取り組みされていると感心しました。また、今回この事業に参加でき、皆さんの熱意を感じました。白井老幼の館も赤ちゃん親子が笑顔になる事業を今後、計画・実行していきたいと思えます。
- コロナ禍での成果報告会でしたが、日本中の参加者が ZOOM でつながりました。発表、意見交換の場に参加できたこと、とてもうれしく思います。0 歳から 2 歳の子どもの成長、発達に寄り添い笑顔になれる支援ということで各地で「わらべうた」「ダンス」「ふれあいあそび」の活動が行われていました。プロによるアプローチ事業、生の声の報告、とても興味のあるものでした。これからもみんなが笑顔になる活動が広がっていくことを期待しています。
- 赤ちゃんや子どもたちの表情はもちろん、ママたちの生き生きとしたお顔を見られて幸せでした！
- 久しぶりに赤ちゃんの笑顔を画面を通してですみることができました。非認知能力の育成についてもっと考えないといけないですね。
- 乳幼児期から音楽やダンスなど子どもの興味や好奇心をくすぐるような遊びを通して今まで潜在していた非認知能力を引き出し、身につけることができるということがよくわかりました。
- 皆さんの活動に感動しました。赤ちゃんも自分の意見を持っている、大人が待たなくてはという大沢さんのことばが素敵でした。つい子どもを大人の思うようにしたいことの多い幼児の教育 反省です。
- あつという間の 1 時間半でしたが、代表の方や講師の方々がどのような気持ちでこの企画を行っているのか、親子のことを大切に考えているのかが大変良くわかり伝わってきました。
- 継続は力なりと思えます。信頼関係をつくることは子育て、親育ちの支えになると感じました。
- コロナ禍でも歩みを止めることなく事業を進められる姿にとても勇気づけられ、自分たちの活動も動き出すことができました。コーディネーターの方が、事業実施先へのリサーチとアーティストとのうちあわせをとても丁寧にしてくださったので、安心して取り組むことができました。・アーティストである私たちにはできない、地域密着の、連続した取り組みだからその成果を目の当たりにしました。

実施施設：おゆみの中央・子育てリラックス館

プログラム名：「人形劇 にこにこげきじょう」



実施場所：おゆみの中央・子育てリラックス館

実施日時：2020年10月26日(月) 11:00～11:40

参加者数：総数 21人

①乳幼児9人(0歳(11か月):1人 1歳:6人 2歳:1人 3才:1人)

②大人 12人(保護者:9人 施設職員:3人)

スタッフ数：パフォーマー2人 人形劇団ののはな(納富俊郎 納富祥子)

コーディネーター2人(中村雪江 買場都明) スタッフ(笠原直子)

🍷プログラム内容

しろくまくん ウレタンロボット かえるくん うさぎちゃん くねくね ねんねここもりうた
人形の動かし方スキル お母さん同士や納富さんとの交流

🍷当日の様子

白くまくんは、親子でうわーとか、あれあれと指さし合ったり、笑い声やいろんな声が出て、よく見ていました。はじめ泣いていた1歳児も始まったら泣き止み、白くまくんに手を差し伸べながら見ていたり、入室してハイハイしまくっていた子がすっぽり抱っこされてじっとみている、お母さんたちがとてもリラックスして、子どもが少々動いても集中して楽しんでいました。

1歳児はニコニコ・きよろきよろしながらも、カエル君がハエを食べるとか、のうとみさんの肉声のおしゃべりが始まると、舞台の方を見ながら、おかあさんのそばに心地よく居る、という感じでした。

カエル君で「ジャンプ！」とみんなで掛け声をかけるところは、お母さんたちが声を合わせて、自然に子ども達を抱っこして上に掲げました。演者と、観客の気持ちが一体となって、子どもと共に楽しんでいる、とても微笑ましい瞬間でした。ねんねこねこの子守歌の歌が始まると、シーンとなり耳を傾けみんなが集中。終わるとママたちから、やさしくやらかい息が漏れ、リラックスと癒しの時間となりました。お家に帰っても遊べるよう、ウレタンロボットのおもしろい動かし方のワークも好評でした。

🍷保護者からの声(アンケートより わが子の様子と養育者自身)

- ・じーっと見ていた…7人 まねをしていた…2人 みとれていた…3人 興味をもった…4人
- ・1歳児：音楽や声によく反応し、体を揺らしていた。わんわん、ニャー等単語を発していた。
- ・1歳児：動く物に興味があり、不思議な動きを一生懸命みる。30分くらいなら静かに観られる。
- ・楽しかった・癒された…7人 うれしかった…4人 安心できた・ほっとした…2人
- ・また観たい！9人のママ。時間も30分くらいでちょうどよい。近くで観る機会がないのでよかった。
- ・家に帰って紙袋人形をつくって遊びたい！ ウレタン人形で遊びたい！ 声音を変えて遊ぶ。
- ・コロナで何もエンタメを見せられなかったので、すごくうれしかった。ありがとうございます。

🍷施設関係者からの声(アンケートより 乳幼児の成長発達 親子の愛着形成の観点から)

- ・始まったらすぐに集中し、音楽に耳を傾け、犬等興味のあるものに対して大きく反応していた。
- ・お母さんたちが始終にこやかに楽しみ、お母さん同士がかかわり合うこともうれしそうだった。
- ・色彩等子どもの目に入りやすい工夫がされ、語りかけにより言語理解の成長を促せる。
- ・子どもの指さしや声を出した時にお母さんがしっかり反応し、抱っこ等スキンシップも好ましい。

(コーディネーター：買場都明)

実施施設：西白井コミュニティープラザ

プログラム名：「人形劇 にこにこげきじょう」



実施場所：西白井コミュニティープラザ

実施日時：2020年10月28日(水)10:30～11:30

参加者数：総数31人

①乳幼児15人(0歳:6人 1歳:3人 2歳:3人 3才:3人)

②大人16人(保護者:14人 地域:2人)

スタッフ数：パフォーマー2人(人形劇団ののほな 納富俊郎 納富祥子)

コーディネーター2人(岡田泰子 中村雪江)

🍷プログラム内容

- ・しろくまちゃん ・ウレタンロボット ・かえるくん ・うさぎさん ・スポンジ人形
- ・紙コップ人形「こぶた、たぬき、うさぎ、ねこ」ウレタン人形の動かし方スキル 親同士の交流

🍷当日の様子

- ・ぬいぐるみのしろくま、かえる、うさぎなど、かわいいどうぶつが出てきてうごく、子どものママもジーッとみている。
- ・赤ちゃんはみていない子もいたが、横を向いて手をパチパチたたいたり、ときどき後ろを向いてお母さんの顔をみて、きげんがよかった。
- ・少し大きい子は、「ぼく、いぬ！」と言うと「いぬ！」と真似をし、ロボットが「おかあさん！」という「おかあさん」とマネし、うさぎには「ウシャギ〜！」と言っていた。
- ・かえるがジャンプすると、お母さんは自然と子どもを膝にかかえて何度もジャンプさせて、子どもはパチパチ手をたたいたり、にこにこしていた。

はいはいで、スタッフの方に来ようとしたり、同じ場所でごによごによと動いていたが、きげんはよかったので、お母さんは舞台を楽しんでいた。「くねくね」は、目鼻もないセリフがない棒使いの人形劇。お母さんたちは感心したようです、子どもそっちのけでよく見て、大きい笑いがおきた。

🍷保護者からの声(アンケートより わが子の様子と養育者自身)

- ・よくわらっていた 9人 ジーッとみていた 10人 あきたようだ 3人 まねをしていた 2人
- みとれていた 4人 興味をもった 7人
- ・いつも落ち着きなく動いている子ですがじっと座って最後まで見ることができるようになった。
- ・コロナでなかなかこういう機会がないので来てよかった。
- ・長い時間楽しんで見られることがわかった。こんなに長い時間見ていられることにおどろいた。
- ・人形が動くのを喜び、楽しそうにまねして声を出して笑っていた。
- ・たのしかった 14人 いやされた 11人 うれしかった 7人 安心できた2人 ほっとした 3人
- ・ぜひまた見たいです。見せたいです。(100%) 時間もちょうどよかった
- ・家で遊べます。スポンジ文字をやりたいです(7か月)
- ・身近なものでこんな楽しく家でも遊べることを知れてよかったです(9か月)
- ・紙袋で動物を作ってあそびます！何にしようか楽しみです。
- ・スポンジの犬でいっしょにごっこあそびができそうです。(コーディネーター 岡田泰子)

実施施設：習志野市 こどもセンター

プログラム名：「人形劇 にこにこげきじょう」



実施場所：習志野市 こどもセンター

実施日時：2020年 10月 30日（金） 10:30 ～ 11:20

参加者数：総数 28人

①乳幼児 11人（1歳：5人 2歳：5人 3才以上：1人）

②大人 17人（保護者：10人 施設関係者：5人 行政：2人）

スタッフ数：パフォーマー 2人（人形劇団のはな 納富俊郎 納富祥子）

コーディネーター2人（大森智恵子 綿貫のぼら） スタッフ（桑原信子）

🍷プログラム内容

- ・白くまちゃん・ウレタンロボット・封筒人形むしゃむしゃくん（カエル君）・くねくね・コップンコ劇場 ・ねんねこねこの子守歌・「またね」・「ウレタンわんちゃん」使い方遊び方説明

🍷当日の様子

しろくまくんが出てくると、お母さんが子どもの顔を覗き込む。本物の白くまと黄色の虫が遊んで遊んでいるみたい。ウレタンロボットが出てきて笑い声。いもむしに笑顔。カエルの掛け合いにみんな笑い声がでる。みんな一緒にジャンプ!!みんな一斉にジャンプと言う。「観る緊張感がなくなった感じ」おひぎの上でおとなしく見ている。リズムに合わせて一緒に体ゆらゆら…

少し、飽きた子が畳の部屋へいく、お母さんが抱っこして観る。

紙コップ人形で皆んなで歌う。紙コップに「きつね♪たぬき♪こぶた♪ねこ♪」あらふしぎ次々と動物が出てくる。みんな知ってる歌で楽しそうに歌う。

「ぞうさんぞうさんおはながながいのね♪そうよかあさんもながいのよ～♪」次は「きりんさんきりんさんおくびがながいのね♪そうよかあさんもながいのよ～♪」「うさぎさんうさぎさんおみみがながいのね♪そうよかあさんもながいのよ～♪」と替え歌のたびににこにこ愉快的歌詞をみんなで歌った。少し泣いたり、席をはなれる子もいたがほとんどの子がいっしょうけんめい舞台をみていた。単純な動きだからこそ小さな子も追いかけてみる事ができ楽しんでいた。

🍷保護者からの声（アンケートより わが子の様子と養育者自身）

- ・よくわらっていた2人 じーっとみていた9人 あきたようだ1人 興味をもった3人
- ・こんなに集中してみることができると思った。指指して「〇〇だね」と話しながらみっていた。
- ・たのしかった9人 いやされた6人 うれしかった5人 安心できた1人 ほっとした1人 つかれた1人 気が気ではなかった1人
- ・またみたい・みせたい。 ・家に帰って紙袋の人形をつくってみます。ウレタンわんちゃんですぐ家で遊びました。気にいって遊んでいるので大事にします。

🍷施設関係者からの声（アンケートより 乳幼児の成長発達 親子の愛着形成の観点から）

- ・集中すると口元がゆるみ、目を見開いているのかまばたきも少なかった。
- ・「バイバイ ワンワン おかあさ～ん」を声を出してまねっこしていた。お母さんとニコニコ顔になった。コミュニケーションをとる手段として人形劇は受け入れやすい。
- ・乳幼児の成長発達には五感を使うことが大事。この人形劇は、見て楽しむ視覚、手で触れて楽しむ触覚、声を聴いて楽しく聴覚と、とても素晴らしいと感じた。（コーディネーター 大森智恵子）

実施施設：成田市 こども館 なかよしひろば

プログラム名：「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」



実施場所：成田市こども館 なかよしひろば

実施日時：2020年11月17日(火) 10:30～11:30

参加者数：総数 26人

①乳幼児 9人(0歳:5人 1歳:4人)

②大人 17人(保護者:9人 施設関係者:5人 行政1人 地域:2人)

スタッフ数：パフォーマー 1人(大沢 愛)

コーディネーター2人(滝口淳子 中村雪江)

🍷 プログラム内容

ちゅちゅちゅ トンネルポーズ かごかご十六文 馬はどしどし 手袋人形(えんどうまめ)
ぬくぬくおふろ てんこてんこて〜ん ちーん 木の鉄琴 さよならあんころもち

🍷 当日の様子

1回目…1才児

わらべうたはね。待つことが大事なの…。やらせることはしないの、子どもは真似ていつかはやるの。愛さんの一言がお母さんたちを安心させる。ひとり一人名前をきいてごあいさつ。「ちゅちゅちゅ」と指さして鳥がさえずると、すぐに女の子が反応して にこにことごきげん。目で追って愛さんの動きを良く真似ていた。とんねるで、愛さんとお母さんの真似をして、自分もトンネルポーズをした。お母さんのトンネルをくぐった。本当に楽しそう すごい!1歳児。かごかご十六文ではお母さんに抱っこされて、大きな川をどぶ一ん。きゃっ きゃっとはしゃぐ声と笑顔が見られた。えんどうまめ?の緑色の手袋人形では、何だろう?と興味深そうに集中してみた。色合いが子どもたちにとってはいい。おふろで温かくなっておしまい。

2回目…0歳児

5組の0歳児の親子が横一列にすわってはじまり。最初からにこにこしている。子どもの手の平に「ちゅちゅちゅ」と、鳥がとまる。お母さんの指での感覚を感じて嬉しそうに笑った。てんこてんこて〜ん てんこてんこて〜ん わが子が反応するのでお母さんたちもにこにこ顔。馬はどしどしも、あまり落とす刺激が強くないように、月齢に応じてひざの高さを変える。〇〇ちゃんも強い!と、わが子の名前を呼んでおとすと、これも喜んだ。反応するそのわが子の顔を嬉しそうにのぞき込んでいた。ゆったりとたつぷりと0才児のわらべうた時間がながれた。コロナのためパフォーマーは赤ちゃんに近づくことを控えたが、お母さんが抱っこしていた赤ちゃんに「てんこてんこて〜ん」をやってみせた。じーっと愛さんを見てにこっと笑顔になった。

🍷 保護者からの声(アンケートより わが子の様子と養育者自身)

- よくわらっていた 6人 じーっとみていた3人 あきたようだ1人(眠くお腹がすいたため)
- まねをしていた1人 みとれていた1人 興味をもった3人 ふだんみられないような動きをした1人
- ベルの音が好きなこと。とてもよい笑顔だった。ちゃんと母親の顔を見てかけよって来てくれた
- 家で一緒に手あそびできそう ・簡単だったので家で動きだけでもやってみたいです。

🍷 施設関係者からの声(アンケートより 乳幼児の成長発達 親子の愛着形成の観点から)

- 何か特別な事をするのではなく、わらべうたを通して手足の発達や心の発達等全てにつながるという素晴らしいわらべうたを見直す良い機会となった。
- なかなかゆっくりとスキンシップをとれない日常で、わらべうたを通して触れ合っていけたら素晴らしい。(コーディネーター 滝口淳子)

実施施設：袖ヶ浦市 神納コミュニティーセンター

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：袖ヶ浦市 神納コミュニティーセンター

実施日時：2020年11月24日(火) 11:00 ~ 11:40

参加者数：総数 19人

①乳幼児 7人(0歳:3人 1歳:1人 2歳:3人)

②大人 12人(保護者:7人 保育士:1人 地域:4人)

スタッフ数：パフォーマー 1人(安西真幸)

コーディネーター2人(買場都明 中村雪江)

🎵プログラム内容

- ①お返事はーい ②ベビーシャーク(指でパクパク、お手で de パクパク、によきによき、ハイハイ、一休みしてバイバイ) ③いろんなおとあそび(キュッキュッ、ブクブク、ビヨヨン、飛行機、ごろごろ…トントンパ) ④さんぼの曲で ⑤パプリカ

👁️当日の様子

輪になってスタート、講師が「お名前よんだらは一いとか言ってくれる？ 手上げてくれる？」目線低く子どもと目を合わせながら一人一人名前を呼ぶ。小さな子たちがハイイ と手を挙げた。

指をパクパク、だんだん大きく、リズムカルな指あそび手遊び。「お、いいですねえ」リズムカルなポップ調の曲がかかると、さっきの手遊びがリズムカルなダンスに。

・色々な音あそび、ユニークな音、思いもしない音に、ママ達からわあー！、と思わず歓声上がる。ビヨヨンの音では、ジャンプ、抱っこで高い高い、おんぶで揺れる、お膝を飛び越える。さんぼの曲にのってどんな音が出てくるか耳を澄ませ、ブクブク水中、やっほーと出会う、飛行機でブーン、壊れてごろごろ、いろんな音を通して、いろんな世界や空気を想像して味わって自由自在に踊る。

0歳児にママが向かい合って元気に腕を振って足踏みすると、思わずまねして腕を上げ下げ。リズムに合わせて笑顔で近づくママの顔を、じっと見る子、キュッキュッでほっぺをこすられると、自分で触ってみる子、ママの動きに、子どもたちが応え、その動きのバリエーションがどんどん増えていく。

・最後のパプリカ、はしゃいでちょっと疲れた子どもを抱っこして踊るママ、泣かずにお座りしている子どもの前後で楽しそうに踊るママ、親子それぞれのパプリカになって楽しそう。みんな流れるように表現して、自然にリズムを刻んで、やわらかいダンスのパプリカになった。

👩ママ達の声(アンケートより わが子の様子と養育者自身)

- ・子どもも自分も音楽が好きで、とても楽しかった。 ・初め緊張していたが、慣れるにしたがってたくさん動き出して楽しかった。 ・久々にダンスを踊ったという感じで、動けて楽しかった。
- ・1つ1つが真似しやすい動作で、音がするといつの間にか1つのダンスになっていた。ずっとパプリカ踊りたくてもなかなか難しかったのに、一個一個(の動きを)言葉にして切り取って動作を言ってもらえて、私も踊れた!!すごくわかりやすい。ダンス好きってお伝えしたい。
- ・子どもはじっと見ていてやらないでもじっと見て楽しむタイプ。最後まで良く見ていた。
- ・最近人見知りか、はじめじっと周りをにらんで、どうなるかと思ったけれど、途中からトトロの曲、パプリカ、好きな曲でノリノリに踊っていた。

(コーディネーター 買場都明)

実施施設：富里市 ひよしだい保育園

プログラム名：「みんなでいっしょに劇あそび」



実施場所：ひよしだい保育園 保育室

実施日時：2020年11月26日(木) 10:00～10:40

参加者数：総数 21人

①乳幼児 14人(0歳：4人 1歳：6人 2歳：4人)

②大人 7人(保育士：7人)

スタッフ数：パフォーマー 1人(劇団風の子 大森靖枝)

コーディネーター2人(滝口淳子 中村雪江) スタッフ(買場都明)

🍷プログラム内容

楽器でこんにちは(ラッパならしてみるよ 鍵盤ハーモニカ 保育士さんにウッドブロックでたたくことを依頼) おててパチパチ⇒たたいて たたいて たたかない パンダちゃん こんにちはワンワン、こんにちはゲロゲロ こんにちはにゃんにゃん なんだろな?なんだろな?(りんご ぞう ねこ) うさぎのモモちゃんのおはなし マヨネーズ容器でプー楽器 紙袋でお買い物(赤いボール 青いボール 黄色のボール売ってください)おにぎりおにぎり何入れよう? おかか しゃけ おおきなおにぎりつくろ たべよ!カバさんのマスク まいごのこねこちゃん

🍷当日の様子

開始前、人見知り真っ最中の0歳児に大泣きされたが、その後、顔は見ても泣かなかった。先生と仲良しだということが分かったからかな。「おおちゃんです」と自己紹介。身近な物を使った遊びが次々次へとあそびの玉手箱から飛び出してきた。「もういいかい」「みつけた～」小さなぬいぐるみ動物を使ってパンツをみせたりしながら子どもを笑わせて、一気に子どもの緊張感はなくなった。小さな作品には音があり、おおちゃんの楽しい言葉があり、子どもや保育士の参加型になっている。

保育士がたたくウッドブロックのカンコロコロでリズムカルに「♪なんだろな なんだろな♪」手作りかみしばい風に絵をめくりながらあてっこ。「りんご! ぞう! ねこ!」子どもたちの大きな声が響き渡る。

「♪おにぎり おにぎりつくります♪」小さいおにぎりから、中くらい、でっかいおにぎりを手をいっぱい広げてつくり、好きな具をいれてパクッと食べる。「♪黄色いのはバナナ バナナはきいろ♪」と黄色の布を脱がすと、水が入ったマヨネーズの容器だった。吹いてみた「ぼ～ぼ～」すごい!驚き!音が出た。「ぼっぼっ～しゅっしゅっしゅっぼっぼっ～」と汽車の音になり、汽車ポッポで遊ぶ。「ぼよよ～ん」という擬音がでると、子ども達は喜んで大きな声を上げ、体を動かしまくる。

「♪なんだろな なんだろな♪」紙袋でのあそび。紙袋からバスが出てきた。先生がお山になってバスが山を登る。紙袋を使った「カバさんのマスク」は「ハアークショ～ン」とかぜをひいて大きくしゃみをするカバさんのマスクを買うために薬局へ行く話。紙袋にカバさんの絵が描いてあり、めくると大きな口を開けた「ハアークショ～ン」をするカバさんの絵になる。子どもたちはくぎ付けで、ちょうど合うマスクが見つかってよかったよかった。最後には、腹ばいになっていた子もいて、リラックスして観てうれしそうに参加していた。

🍷施設関係者からの声(アンケートより 乳幼児の成長発達 親子の愛着形成の観点から)

- ・とても笑顔が多かった。話を聴く姿が0～2歳上手だった。(話している人の目を見ていた)
- ・0, 1, 2, 才の子供達のそれぞれが楽しめるように工夫されており30分以上もの間集中出来ていて驚きました。
- ・母親に抱っこしてもらいたくなる。今日は保育者とだったが、母親の膝の上ののって見られたらもっと良かったかもしれない
(コーディネーター 滝口 淳子)

実施施設：印西市 そうふけつどいの広場

プログラム名：「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」



実施場所：印西市 そうふけつどいの広場

実施日時： 2020年 12月 4日（金） 10:30～11:50

参加者数：総数 28人

①乳幼児 9人(0歳：3人 1才：4人 3歳：2人)

②大人 19人(保護者9人施設関係者6人 行政1人 地域：3人)

スタッフ数：パフォーマー 1人（大沢 愛）

コーディネーター2人（滝口淳子 鈴木佳子）

🍷プログラム内容

ちっち・てってのねずみ・てんこてんこ、にぎにぎ・かごかご16もん・〇〇ちゃんは～い、ぎったんぼっこん・ぬくぬくおふろ・おはぎ・てぶくろ人形・馬はどしどし・みえたみえた・木の鉄琴・白い雁ふわふわ

🍷当日の様子

「ちっち」の優しい声に合わせるように子どもの目のあたりで動く指を、0才児もじーっと見ている。1才の子は最初両手をパーに広げていたが、お母さんが片手を人差し指で動かしているのを見て同じ様に指一本にしてお母さんの顔をじーっと見て動かしていた。それを見たお母さん、ちょっと驚きの顔。歌につられて子どもをコチョコチョ！子どもは身をくねらせて笑う。次はどうくすぐろうかと子どもを見て面白そうな顔をして手をちょんちょんするお母さん。「てんこてんこてん」では「こうやっているよね、あるとき真似をするの。「にぎにぎ」もそうなのよ。目を見てゆっくりやるの。」「母さんがやってみせていると、いつの間にか真似っこしてやるのよ」手を取ってやらせないことの大切さに、お母さん方は「そうなんだー」びっくりしながらも納得していた。少し大きい子たちには、ギッタンバッコンや正座して子どもを乗せ揺らして子どもをすんと落とす遊びなど体を使うわらべうたを多く用いた。柔らかな動きの白い雁が二羽、歌と共に飛んでくる。さよならあんころもち

🍷保護者からの声（アンケートより わが子の様子と養育者自身）

- ・よくわらべうたが4人 じーっとみていた8人 あきたようだ1人 まねをしていた6人 みとれていた6人 興味をもった2人
- ・まねっこが、とても上手になっていた。人や周りに興味を持っていた。とても良く笑っていた。
- ・よく見ていた。真似をして一緒にやろうとしていた。
- ・たのしかった6人 いやされた9人 うれしかった2人 安心できた4人 ほっとした6人 気が気ではなかった 1人
- ・また子どもと一緒にやりたいです。(多数) 時間もちょうど良かったです。
- ・わらべ歌に癒されて心が落ち着きました。赤ちゃんにとってこのリズム音は心地が良いものだと思います。
- ・簡単なものもたくさんあったので、やりたいです。・お名前呼んで「はい！」やりたいと思います。
- ・足の上に乗せて遊ぶ遊びも好きだったようなので、またやりたいと思いました。

🍷施設関係者からの声(アンケートより 乳幼児の成長発達 親子の愛着形成の観点から)

- ・ママの膝の上でできるわらべ歌が多かったので、終始安心した表情でした。
- ・初めは戸惑いながらもわが子の反応をみて、喜びを感じている様子が伺えた。ゆったりとした気持ちになれた
- ・日々の子育ての忙しさの中で、心も忙しいお母さんが、ゆったりできる時間になると思います。目を合わせて、ゆったりとコミュニケーションがとれるうえ、スキンシップができるので、心の安定につながると思いました。

(コーディネーター 滝口 淳子)

実施施設：野田市北コミュニティーセンター

プログラム名：「わらべうたであ・そ・ぼ」



実施場所：野田市北コミュニティーセンター 和室

実施日時：2020年12月4日(金) 10:00～10:40 11:00～11:40

参加者数：総数 27人

①乳幼児 11人(1回目0歳:5人 3才:上の子同伴最初だけ 2回目1歳:4人2才:1人)

②大人 16人(保護者:11人 施設職員:4人 行政:1人)

スタッフ数：パフォーマー 1人(山の音楽舎 川中美樹)

コーディネーター2人(岡田泰子 中村幸恵) スタッフ(中村雪江)

🍷プログラム内容

- ① ・おてだま(皆揃うまで) ・口のあそび(おさるのぬいぐるみを使いながら「ンコ～」、「アップ～」、「アワアワアワ」「レロレロ」) ・足のあそび(足指を1本づつさわりながら「1里、2里、3里、4里「シリシリシリ～」、・「わらべうた」木琴の音で歌う
- ②わらべうた・「イモムシゴロゴロ」・「しおぶりこぶり しおんなきゃ ボチャ～ン！」 ・「去年のややと 今年のややと くらべてみれば～おんなじことや～ 毎年よいとこ クルクル回って バ～！」 ・かごかご16文、ふ～かい川には～まった、あ～さい川には～まった、やっぱりふ～かい川にドボ～ン！(お話しを交えながら)

🍷当日の様子

- ① 0歳児 「ンコ～」、「アップ～」おさるのぬいぐるみを赤ちゃんにしてやって見せる。口のあそびは、赤ちゃんとも目を合わせて何回もかたりかけるようにやってあげると、赤ちゃんの表情がゆるんでくる。講師も赤ちゃんひとりひとりに「ンコ～」 「アップ～」 「レロレロ」と語りかけながら「こうして口の筋肉が育つよ～ 明けても暮れても毎日やってみてね～。口の筋肉とお尻の筋肉は連動しているんだそうよ。緊張させたりゆるめたりが自然にできるようになるんだって」と、発達のはなしも交えながらゆっくりくりかえすと、ママたちも納得したように、何回もやっていた。わらべうたにのせてママに抱っこされ、揺らされながら、赤ちゃん同士少し近づいて「ばあ～」ママ同士も優しい笑顔で語りかけ、赤ちゃんはうれしそうにニコニコとご機嫌だった。
- ②1～2歳児 パパも参加した。「かごかご十六文」歌に合わせて揺らしながら、どぶ～んとおとす声をあげて「きゃっきゃ」とわらっていた。動くのが大好きな1～2歳児に合わせ、動きのあるわらべうたあそびが選ばれた。一番大きい2才の女の子への配慮もされ、ゆきだるまがでてくる手遊び・うたで満足してうれしそうにはしゃいでいた。歩ける子たちなのでママのところからよく脱走して興奮したように歩き回っていた。1歳児と2歳児で、うごきも興味の持ち方もちがう。天真爛漫によく動く男の子たちだった。

🍷保護者からの声

- ・よくわらっていた3人 じーっとみていた 7人 あきたようだ 1人 まねをしていた2人 みとれていた 2人 興味をもった 1人
- ・こちょこちょがすき ・「んこ～」のところで口まねをして声を出そうとしていた
- ・“ストン”とおとすのを喜んでいて ・だっこではげしいうごきをするのがすき
- ・たのしかった 9人 いやされた 3人 うれしかった 3人 ほっとした1人 つかれた1人
- ・いきいきしていた。楽しんでおり笑顔が見られた。新しいわらべうたもすきになったようです
- ・体を動かすのがいいですね。一点に止まらず動き続けたことで、ストレスなくできました

🍷行政からの声

- ・こうした機会を持つことがとても大事だと感じました。

(コーディネーター 岡田泰子)



実施場所：佐倉市 臼井老幼の館

実施日時：2020年12月8日(火) 10:30 ~ 11:10

参加者数：総数 31人

①乳幼児 11人(0歳:4人 1歳:4人 2歳:2人 3歳:1人)

②大人 20人(保護者:10人 施設職員:7人 行政:1人 地域:2人)

スタッフ数：パフォーマー 2人 (リーフ企画 歌子さん ぴんたろー)

コーディネーター2人 (滝口淳子 中村雪江) スタッフ (鈴木佳子)

🍷プログラム内容

♪はじめましてこんにちは ♪シャボン玉とんだ ♪真っ赤なお鼻のトナカイさん ♪大型絵本(♪雨ふりくまさん ♪お花が笑った) ♪ほっぺにチュ! ピンたろうさん楽器 ♪はいしドウドウ ジャンプ ♪まさかり かついだ金太郎ジャンプ ♪ゆりかごのうた ♪笑顔 楽器にさわっ手交流

🍷当日の様子

まずご挨拶。初めの歌で、子どもの名前を一人一人呼んでもらって、とても嬉しそうだった。♪シャボン玉とんだでは、大きく作った歌子さんのシャボン玉に釘付けだった。歌が始まると、お母さんも一緒に子どもと顔を見合わせて、体を揺らしながら歌っていた。楽しそうにリラックスしてきた。「ほっぺにチュ!」では、ほっぺや頭、お尻や背中色々な場所にやさしくチュッと肌触り良い、てるてる坊主のようなお人形でスキンシップいっぱい。♪お花が笑ったでは、7か月の子もあーあー声を出して、歌子さんに答えながら、自分でも歌っているようだった。ぴんたろーさんは◎◎?※×!△◇と、わけのわからない赤ちゃん言葉でやり取りをし、赤ちゃんも「あーあー」とご機嫌だった。ぴんたろーさんのユーモアはみんなを和ませた。

ぴんたろーさんの楽器演奏にもみんな釘付け めずらしい楽器や音に興味深々だった。お母さんのお膝の上で太鼓に合わせてリズムとってジャンプ。立ち上がってお母さんと一緒にジャンプ、ジャンプ。最後のうた「笑顔」では、お母さんたちは、リラックスして体を揺らしながら心地よさそうに癒されていた。

最後に歌子さんから「お子さんにとって最高の歌手は、お母さんです。今だけです、抱きしめて、お母さんが歌ってあげてください。」とメッセージを送った。

終演後、太鼓楽器に触るコーナーでは、手を消毒して、全員が参加、太鼓を叩いてみたり、ヤギの爪でできている楽器をならしてみたり色々な楽器を叩いてみたり、満足するまで時間いっぱいまで楽しんだ。

🍷パフォーマーからコメント

0歳のママにはほっとできる時間を届けたいし、ほっとしてほしい。子どもたちがすごく集中している。

お母さんが安心して見られることが大事、知っているスタッフさんがその役目をしていて。コンサートが終わってからの楽器に触れる時間が大事な時もある。脳の発達の実証されているが集うことのたいせつさも大事。

🍷保護者からの声

- よくわらっていた 2 じーっとみていた 7 まねをしていた 1 みとれていた 1 興味をもった 5
- 楽しいリズムの歌や演奏の時に手をたたくような動作を初めてしていたのを見ました
- 会場全体をきょろきょろしていた。目がキラキラになっていた。行動が活発になっていた
- たのしかった 10 いやされた 9 うれしかった 6 安心できた 4 ほっとした 3 また見せたい 全員

🍷施設からの声

- ずっと集中している子達を見て、子ども達の力、それぞれ持っている可能性や感性をずっとほめていきたい
- やわらかい歌声にこころ良さを感じてくれたようである。最高の子守唄はお母さんの子守唄・お母さんの声であると知ってくれると嬉しいです。
- 受け止めるお母さんも満たされたと思います。スキンシップを図り目をみつめ微笑み合ったり、親子でおしゃべりするいい機会になったと思います
(コーディネーター 滝口淳子)

実施施設：松戸市 おやこ DE 広場小金原

プログラム名：「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」



実施場所：松戸市 おやこ DE 広場小金原 和室

実施日時：2020年 12月 24日 (火) 10:30 ~ 11:10

参加者数：総数 14人

①乳幼児 6人(0歳：3人 1歳：2人 2歳：1人)

②大人 8人(保護者：5人 施設職員：3人)

スタッフ数：パフォーマー 1人 (大沢 愛)

コーディネーター2人 (中村幸恵 中村雪江)

🍷プログラム内容

- ・ちゅちゅ (ここへとまれ) ・ぎっこんぱったん(伸ばしたひざに子どもをのせる) ・かしこいネズミ
- ・てんこてんこてん(0歳児) ・みえたみえた (1歳児以上) ・かごかご16もん(深い川 浅い川)
- ・おふろに入る ・ここは手首 手のひら ・はいはいでまてまて ・おすわりやすいすずえ
- ・手袋人形(ねむの木) ・さよならあんころ餅

🍷当日の様子

いつもの3階の広場とちがう場所なので泣いていた子が、スタッフに話しかけられたりするうちに機嫌を直した。おかあさんたちは前向きで、最初の遊びから子どもとかかわって楽しんでおり、子どもたちも安心感いっぱいの様子が見えた。

大沢さんの「上手、上手」の声かけがとても心地よく感じたのだろうか、一歳児は拍手をパチパチとまねしたり、仕草を真似したりとのびのび動いていた。2か月の子は大沢さんのてんこてんこにじっと目を合わせ、お兄ちゃんがてんこてんこと手のひらをひらひらさせるとぐっと顔を向けて目を見開きじっと見つめていた。やって見せる遊び、やってあげる遊びがある、月齢(育ち)に合わせた遊びがある、しなくてもいい、まずはお母さんがやってみる、全部しなくていいなどの話をしながら、ずっと遊びの説明に入っていく、いつの間にかみんなであそんでいる感じ。歩ける子たちは「みえたみえた」が大好きな様子で部屋いっぱい歩き回り、お母さんと顔を見合わせていて楽しさで笑いが絶えなかった。自分から回り込んでお母さんと顔を見合わせたり、お母さんも子どもの後を追いかけて、まてまてはいはいもいつの間にか立って歩き始めた子もいて自然な動きの中で育っていくんだなと感じた。もっとやりたいの聲が上がったり、自分から、ほかの子に仕掛けたり、子どもたちもよく動いていた。お母さんの笑い声が絶えない時間でした。

🍷保護者からの声

- ・よくわらっていた2人 じーっとみていた2人 よくまねをしていた3人 興味をもった3人
- ふだんみられないような動きをした2人
- ・ジャンプの時にうれしそうに手をバタバタ とんでるつもりになっていた
- ・子どもが自然に動いて楽しんでいたのでよかった。・お歌がとても心地よかったようですやすやねむってしまった。
- ・たのしかった4人 いやされた3人 うれしかった5人 安心できた3人 ほっとした2人
- ・身体をいっぱい動かしてくれてよかった ・家や広場でなかなかできないのでとてもいい機会でした
- ・参加した全員からまた参加したい 知りたい やりたい。時間もちょうどよい。

🍷施設からの声

- ・1才半~2才の子たちは、マネっこしながら身体で感じ、0才の子たちはじーっと見ながらママとの遊びの時は表情がやわらいでいた。
- ・声かけ ふれあい 遊びの中で愛着を感じる。ふれあいあそびは大切だと思う。抱っこしたりきゅっしたり、目を見ながら向き合う!!大事だと思う。(コーディネーター 中村幸恵)

「新型コロナ感染防止対策について」



2020年8月 (特) 子ども劇場千葉県センター

0.1.2.3 歳児とその親のためのワーク&舞台上演実施にあたり、新型コロナ感染防止について、子ども劇場千葉県センターの考え方と、演技者と共に行う具体的対策・できることについて以下のよう

■ (特) 子ども劇場千葉県センターの考え方

感染防止については、100%の安全は保証できませんが、私たちができることはすべてやるということと、安全を高め安心の保証をしっかりとしておくという姿勢で臨みます。

そのために、事業実施の際には、主催者、スタッフ、演技者、親（施設の保育士等）と一緒に「こういう考え方でやろうね」と、事前の理解と共有を丁寧に行うことが大切だと考えています。親たちが過度な緊張感をもたないように、「リラックスして楽しんでください」というやさしい対応や雰囲気も心がけます。

■ 打合せでは十分なヒアリングと意見交換を行います

当団体や演技者の感染防止対策をお伝えし、実施施設の現状や対策、意向、心配なことを十分お聴きします。相談や打合せを丁寧に行い、実施内容を確認します。

実施当日は、親たちがわが子の動きに敏感になることが考えられます。このワークでは、0歳～3歳は自由に動き回るのを、動くそばから止めることは控えます。うれしさの余り突進してくることがあっても上手に対応します。そういうハプニング的なことはあり得ることも予測し、演技者・スタッフが丁寧にメッセージを伝え、親子が安心して楽しめるようにします。

■ スタッフ・演技者の感染対策 安心につながる対応

- ①手洗い、うがい、マスク着用、大きな声や必要以外の会話を控える、小道具等の消毒、配布物の手渡しは避ける等、基本的な感染防止はしっかりと行います。
- ②当団体のスタッフ及び演技者は、実施14日前から健康チェックシートにて健康チェックをし、実施日に責任者が全員の健康を確認します。必要に応じて実施施設への提出もいたします。（体温測定 発熱、倦怠感、頭痛、咳、のどの痛み、鼻水・鼻づまり、腹痛、下痢、嘔吐、味覚・臭覚異変の11項目をチェック）
- ③三密を避けるため・ある程度の空間をつくるために、会場の広さによって募集参加者数を決めます。窓を開け放って行い、必要に応じ扇風機等も使用します。それでも換気が十分でない場合は、簡易なサーキュレーターの持ち込みが可能です。演技者と参加者の距離を保ち、実施施設の環境下で、最善の工夫と対応をします。
- ④実施当日は、スタッフ・演技者共に洗濯した着替え（上下服と靴下）を持参し、会場にて着替えます。
- ⑤施設の要望やガイドラインに添って行動します。（入口での体温検査、訪問記録、アルコール消毒等、施設が決めた事項）
- ⑥当日は参加した親たちへ、安心して楽しい時間にするための協力をお願い等、配布物を置いておきます。演技者からもひとこと協力のメッセージもします。

**「0歳～2歳の親が子どもの成長発達に寄り添い笑顔になる支援」事業
報告書**

発行日：2021年 3月 15 日（月）

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート
新千葉 102 号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

E-mail：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします



令和2年度社会福祉振興助成事業

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

E-Mail: kidchiba@lily.ocn.ne.jp <http://chiba.gekijou.org/>